

地域のつながり

四日市居場所ネットワーク通信



第10号

発行月:2025年6月 発行者:NPO 法人市民社会研究所 (委託者 四日市市)

四日市の「居場所」のご紹介

三重西児童館「ルンルン塾」(三重西地区)

三重西のこどもが孤独・孤立に陥らないようにするため、こどもたちの活動・交流の場づくりを行うことを目的とし、5月に三重西児童館「ルンルン塾」が開所されました。場所はNPO 法人ライフサポート三重西が運営する「いきいき塾」を活用。

1階では、ポッチャや映画、高齢者と遊ぶ等のテーマを決めて、地域の人とこどもが交流をします。2階では、子ども図書館、学習、交流の場として学習スペースが設けられ、自由に学習することができます。また、こども食堂も同じ建物にある飲食店で月2回開催されます。

代表の菅瀬さんは「これまでは、こどもの居場所は学童と家くらいしかなかった。こどもや親の選択肢が増えることで、こどもの孤独・孤立に陥らないようにしたい」とおっしゃっていました。



三重西地区に開所した三重西児童館



地域の人とこどもたちがポッチャを楽しむ

様々な体験を通じて交友関係を広げ、伸びやかな性格になる



2階には学習スペースがあります

ルンルン塾 (利用料無料)

1. 子ども図書館・学習・交流の場
毎週 (祭日を除く 月、水、金)
午後3時～午後5時30分 (夏期)
午後3時～午後5時 (冬期)
2. こども食堂
(こども無料、高校生以上 300円)
月2回 (隔週)
第2、第4日曜日
午前11時～午後1時

居場所の課題①高齢者男性の利用が少ない？

「地域のつながり」強化事業も2年目に入り、様々な居場所の課題が少しずつ見えてきました。今回は「高齢者男性の利用が少ない」について考えます。

これまでに、地域で高齢者向けの居場所をされている方や、NPOで高齢者の居場所をされている方等のお話を聞くと、「男性の利用が少ない」という声を聞きます。考えられる理由として、「仕事が忙しく、これまで地域と全く関わってこなかった」「地域の人とコミュニケーションの取り方がわからない」「利用したい内容がない」等が挙げられます。外出する機会が少なく家に閉じこもりがちになると、フレイルや認知症のリスクが高くなります。

男性の利用を増やすにはどうすればよいのか？の事例をご紹介します。

- ① 同級生同士で誘い合う。地元の同級生が一番話しやすいとのこと。
 - ② 自分でやりたいことを企画し、その担当も行なう。
 - ③ スタッフとして入ってもらう。
- ②と③は、役割があることで、やりがいを感じられるようになるということです。

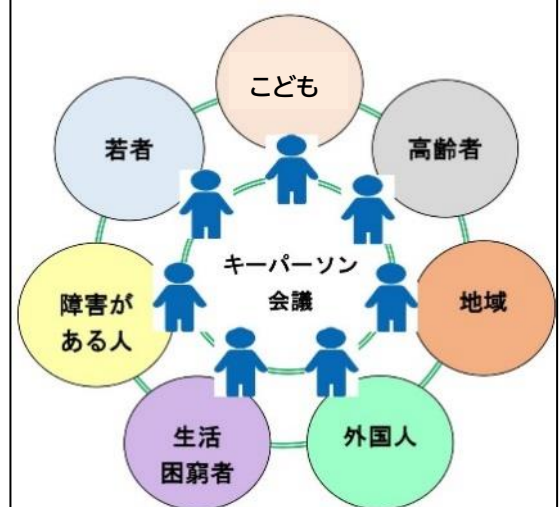


四日市居場所ネットワークとは

四日市市内には、こども食堂や高齢者サロン、学童保育所、認知症カフェなど、さまざまな福祉的居場所があります。こども、若者、高齢者、障害者、外国人、生活困窮者等のさまざまな分野の居場所がつながり、総合的な居場所ネットワークをつくっていきます。

居場所ネットワークができると、いろんな分野の居場所どうしの交流や、居場所を運営する人どうしが、すぐに困りごとを相談したり、情報共有できたりと、様々なメリットがあります。興味を持たれた方は問合せ先までご連絡ください。みんなで一緒につくりましょう！

四日市居場所ネットワークのイメージ



【問合せ先】※四日市居場所ネットワークに参加したい団体、事業所は、お気軽にご連絡ください

発行者：NPO 法人市民社会研究所（委託者：四日市市健康福祉部福祉総務課）

住 所：〒510-0086 四日市市諏訪栄町 3-4

電 話：059-355-5115 メール：ssk21ww@yahoo.co.jp ※電話は「伊勢おやき本舗」で出ます